

公立八鹿病院看護専門学校あり方検討委員会 第1回会議議事要旨

1. 日時 令和8年9月29日（火）13時00分～15時00分
2. 場所 公立八鹿病院3階 第1講堂
3. 出席者 井上委員、豊田委員、藤原委員、
井上オブザーバー

〔欠席：穴田オブザーバー〕

4. 次第

- (1) 開会
- (2) 管理者あいさつ
- (3) 委員紹介・委員長選出
井上委員を委員長に選出

(4) 議 事

※以降は非公開にて開催

- ① 病院組合のあり方検討の目標とスケジュール等について …「資料1」
- ② 看護専門学校の現状・課題について …「資料2」
- ③ 意見交換

[議事要旨]

(1)病院組合のあり方検討の目標とスケジュール等について（資料1：事務局より説明）

① あり方検討の目標

短 期：経常収支10億円の改善（取り組み3年目〔R11〕の経常収支均衡）

中長期：2040年に必要とされる体制を視野に入れた基盤づくり

② 検討の前提

- ・構成市町等の行政や但馬医療圏域の関係機関との調整を図りながら進める。
- ・独自に取り組める経営改善は、上記にかかわらず積極的に取り組む。
- ・客観的、専門的見地から助言を得るために「あり方検討委員会」を設置し、その助言を尊重して今後の実施計画を推進するなど。

③ 委員会スケジュール

令和8年9月から令和9年6月（予定）

(2)看護専門学校の現状・課題について（資料2：事務局より説明）

(3)意見交換

■主な意見

◇看護師確保、学生確保

- 充実した看護師奨学金（修学資金貸与制度）の運用により、手厚くサポートされており羨ましく思う。

- 学生の対象を新卒高校生に絞るのか、社会人卒を拡げていくのかについての検討が必要である。
- 実習医療機関との連携を密にしていく活動を拡げていくことも必要で、実習医療機関がいかに関をサポートしてくれるかという点は、学校の運営に大きな意味があると感じている。
- 京都府立看護学校(与謝野町)は、来年新しく建物を建て替え、定員を 60 人に増員される。この圏域と若干被っている可能性も考えられ、影響を少し懸念する。
- 行政も今年度から新たに開始した事業も含め、従来から看護師の方も含めた若年層の U ターン、I ターンに向けた取り組みに努めている。

◇教員、講師不足への対応

- オンラインによる講義については、対面講義のメリットを踏まえつつ、どのように進めていくのかが、大きな課題である。

◇今後の検討にあたり

- 18 歳人口の減少と大学拡充傾向に向けて十分な検討が必要だと強く思う。
- 但馬地域にとって公立八鹿病院の立ち位置が、大きく医療人材の育成に関わってくる。
- 若年層の人口が急激に減少していくことと、経営的な側面が難しいということもあり、第 2 回以降、慎重な話し合いが必要と認識した。
- これからの地域包括ケアの中でも、看護職の果たす役割は大変大きい。その人材を守っていくという点では大きい役割を担っている。
- 学校という教育の現場は、収益向上による収支の改善を図るより、「いかに学ばせるか」という視点が大切と感じている。
- 但馬地域として看護専門学校をどう考えていくのか、ということも考えていく必要がある。
- この地域を大切に、この地域を守っていくという視点からも非常に必要な検討だと思う。

■質 疑

◇看護専門学校を優先したあり方検討について

⇒病院、介護施設、看護専門学校と幅広く展開しており、看護専門学校は、その専門性から別に委員会を設置。病院組合全体の検討と並行して進めている。

◇看護師奨学金制度について

⇒月額 5 万円の貸与を基本に義務年限が倍増となる 10 万円コースを運用。

加えて、入学時の一時的な資金として 60 万円を貸与している。

◇社会人卒の学生確保への取り組みについて

⇒オープンキャンパス開催の周知やハローワークへお知らせの設置、また紹介を依頼している。あわせて、兵庫県看護協会但馬支部の活動の場で、募集要項やパンフレットを

配布している。

◇オンライン講義の実施について

⇒遠方の講師、感染状況等に応じて実施している。ただ、対面が望ましいという声もあり、オンライン・対面どちらでも対応できることを提案している。

◇丹波市立看護専門学校の状況について

⇒新しい校舎に建て替わり、寮も新しく、但馬地域から入学される学生も多いので、受験日が重ならないよう調整している。

◇退職者の転職先について

⇒圏域内の豊岡病院への転職者もあるが、兵庫県は流出が多くある。

老人福祉施設、保育所の看護師としての転職もあり、今年は他府県への転職希望を確認している。

◇教員の処遇について

⇒行政職に転籍することなく、看護職の給与表による運用としている。

◇看護師確保に向けた開業医への訪問について〔事務局からの質問〕

⇒社会人入学者の中には、開業医に勤務する事務員の方が、身近で看護師の業務を見て看護師を志望するケースがあり、パンフレットを持って開業医を訪問することも学生確保策のひとつになる。

□まとめ

◇本委員会では、忌憚のない質疑応答により、現状と課題について理解が深まった。

◇看護学校の評価は、財務状況だけではなく、但馬圏域における医療人材供給機能を含めて検討する必要がある。

◇若年層の人口減少と大学進学志向の高まりの中で、高校の新卒者だけでなく社会人層も含めた学生確保策の検討が必要である。

◇近隣校の定員拡大や施設整備を踏まえた競争環境の変化への分析が必要である。